

2015/8/12

## 柏の景気情報（平成27年7月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成27年7月分）

○ 調査期間 : 平成27年7月23日～8月7日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	81	51.9%
建設	44	24	54.5%
製造	33	15	45.5%
卸・小売	43	28	65.1%
サービス	36	14	38.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

## 【平成27年7月の調査結果のポイント】

### ≪業況DIはやや改善するも、コスト増や猛暑の影響で先行きは依然厳しい≫

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.7(前月水準▲24.7)となり、マイナス幅が5.0ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、幅の大きい順に、サービス業▲14.2(同▲12.5)、製造業±0.0(同▲11.1)であり、サービス業では、26.7ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲25.0(同▲26.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲42.8(同▲39.2)である。

【建設業】からは、「今後の仕事は確保出来ているものの、採算的に余裕がなく、厳しい状況が続いている。猛暑の影響で思うように作業が進まない。作業員の体調不良等、何処の現場も作業性が落ち、行程のズレが生じ、結果的に売上減少となった。全体的に仕事は少ないようで、採算度外視で受注する業者も出ており、価格破壊が起きそうな感がある。また、材料仕入先からの営業も増え、かなり厳しい業況を感じている」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、諸経費値上げ、仕入単価上昇の状況での納品単価値上げは受け入れられていない。価格のダウンを要求する業者もある。大企業との格差は拡大している」(その他の金属製品製造業)、「夏の暑さで各企業の士気が下がっている様に思える。受注量が減っている」(印刷業)、「お盆休みの影響により、加工協力会社が工数オーバーになっており、コストアップに繋がっている」(その他の機械・同部品製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、7月の梅雨明けから、例年にない気象環境となつて、猛暑、ゲリラ豪雨、雷、干ばつと生産者にとっては厳しい環境で栽培しています。市場取引では、全国から安定供給を図るために、九州から北海道の青果物の情報を聞き取り、安定入荷と公正な価格で取引をしていますが、一部の商品では不足感があり、高値取引もあります」(食料・飲料卸売業)、「流通業はじめ、世の中の経済指標が向上しているので、業績が上がって当然です。多少、世の中の指標よりは上振れしているので、その分は企業努力と能力なのだ」と認識しております」(他に分類されない小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「不動産に関する問合せ数はほとんど変わらずに平均しています。土地の広い駅近の条件の良い物件は動きが良い。逆に、バス便、狭小物件は動きが鈍いです」(不動産管理業)、「個人需要では、国内は相変わらず大阪のテーマパークと北陸が大人気。現在、年末年始の申込みがピーク。海外は10月以降、ヨーロッパが復調の兆し。ISの影響が落ち着いてきたのか？ハワイウエディングが人気。法人需要では、秋の職場旅行案件が活発に動いている。秋の行楽シーズンにおいて、バス需要に供給が追いついていない日が出ている」(旅行業)、「近頃、空き家問題をあちこちで耳にするようになりました。柏近辺はまだ地方に比べ切迫した問題にはなっておりませんが、そのような地方を参考に、今から問題抑止のための法整備や業界の勉強会が必要と感じています」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

#### ◎猛暑の影響

各業種より、「猛暑でエアコンのエコタイプ機種への買い替えが多い。LED照明も外灯に普及増が見込まれる」(電気工事業)、「衣料品は前年が6月末スタートのセールを本年は7月に変更したため、序盤はセール牽引で大幅伸長。但し、中旬以降は猛暑の影響もあり失速。宝飾・時計など高額品は前月に引き続き好調を維持しているものの、前月・前々月に比較してトレンドは鈍化」(百貨店)などのコメントが寄せられた。

#### ◎仕入単価上昇

各業種より、「売上高は上がっているが相変わらず仕入の支払いが多くて、業況や資金繰りが悪いのが悩みです」(内装工事業)、「円安から来る仕入原価の上昇は、世界的な需要アップも踏まえ、これからも続くと思われる。どう付加価値を付けていくかが課題」(各種食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

#### ◎プレミアム商品券

各業種より、「プレミアム商品券によるお客様の来店は多少増えつつあるが、財布は固く、無駄なものは本当に買われていません。レジャーには使用するが、毎日の食費等は節約の意識が高いです」(その他の各種商品小売業)、「上旬は雨続き、中旬からは真夏日と天候不順に悩まされる。売上金額は昨年並みだが、利益率は下がる。来街者数の減少が顕著。金額が昨年並みから微増になったのはプレミアム商品券の影響かもしれません」(婦人・子供服小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲18.5	▲28.5	▲5.2	▲32.0	±0.0
3月	▲12.0	▲9.0	△15.7	▲42.3	±0.0
4月	▲16.8	▲13.0	▲5.5	▲44.4	△13.3
5月	▲24.3	▲26.0	▲11.1	▲50.0	±0.0
6月	▲24.7	▲26.0	▲11.1	▲39.2	▲12.5
7月	▲19.7	▲25.0	±0.0	▲42.8	△14.2
見通し	▲16.0	▲12.5	▲6.6	▲35.7	△7.1

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成27年7月の業況についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.7(前月水準▲24.7)となり、マイナス幅が5.0ポイント縮小した。

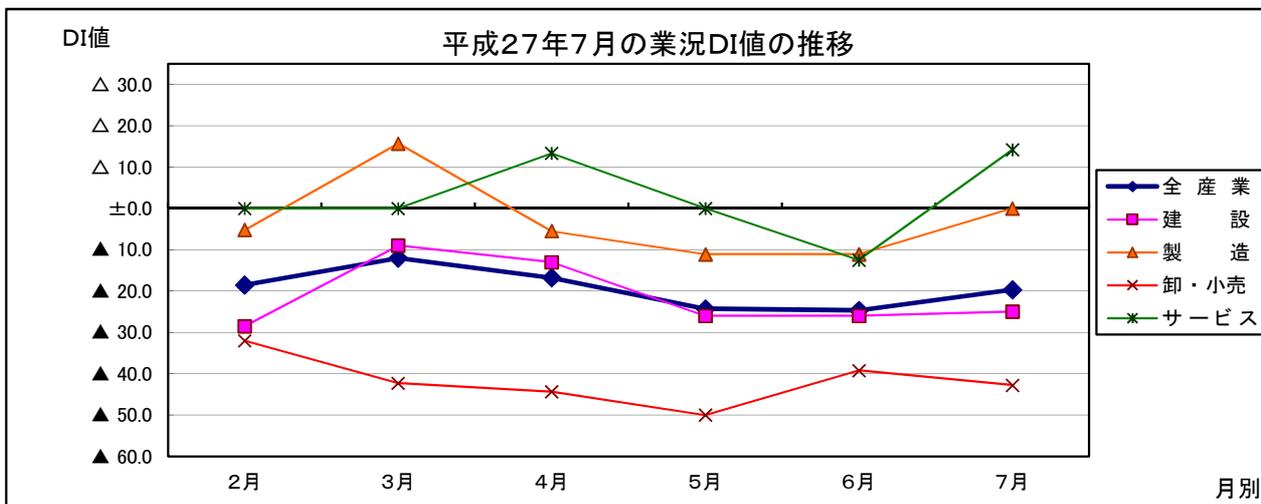
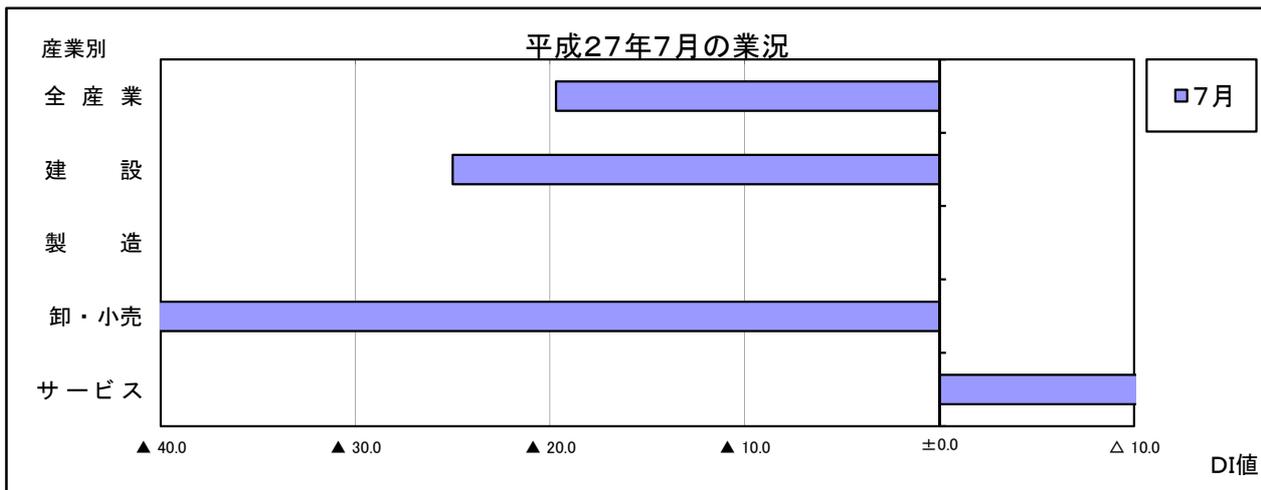
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、幅の大きい順に、サービス業▲14.2(同▲12.5)、製造業±0.0(同▲11.1)であり、サービス業では、26.7ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲25.0(同▲26.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲42.8(同▲39.2)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.0(前月水準▲15.2)となり、マイナス幅が0.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業▲7.1(同▲12.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲35.7(同▲28.5)、建設業▲12.5(同▲8.6)、製造業▲6.6(同▲5.5)である。

平成27年7月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲18.5	▲12.0	▲16.8	▲24.3	▲24.7	▲19.7	▲16.0(▲15.2)
建設	▲28.5	▲9.0	▲13.0	▲26.0	▲26.0	▲25.0	▲12.5(▲8.6)
製造	▲5.2	△15.7	▲5.5	▲11.1	▲11.1	±0.0	▲6.6(▲5.5)
卸・小売	▲32.0	▲42.3	▲44.4	▲50.0	▲39.2	▲42.8	▲35.7(▲28.5)
サービス	±0.0	±0.0	△13.3	±0.0	▲12.5	△14.2	△7.1(▲12.5)



【平成27年7月の売上についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4.9(同▲8.2)であり、マイナス幅が3.3ポイント縮小した。

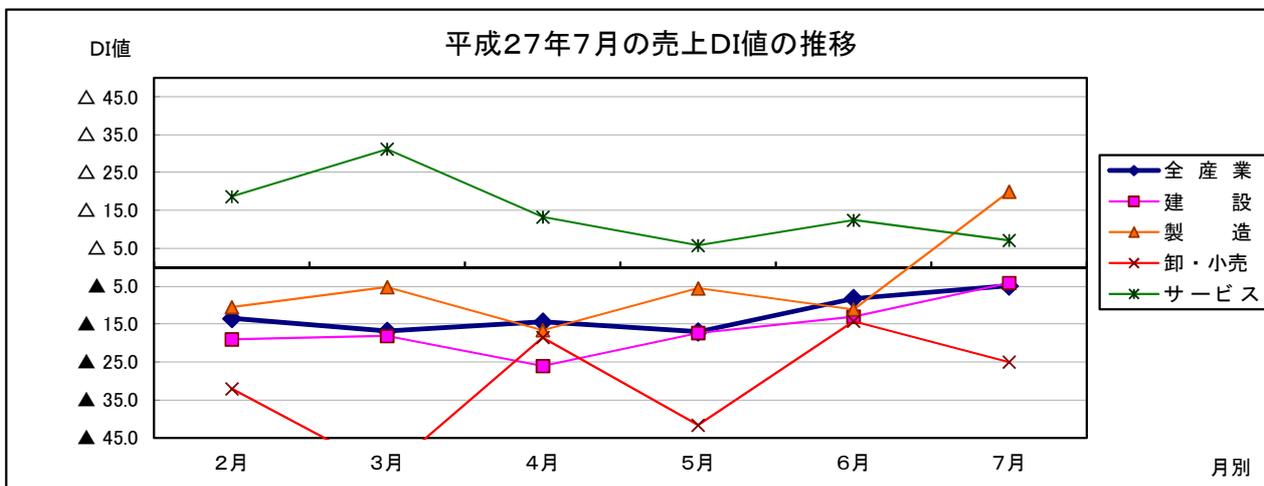
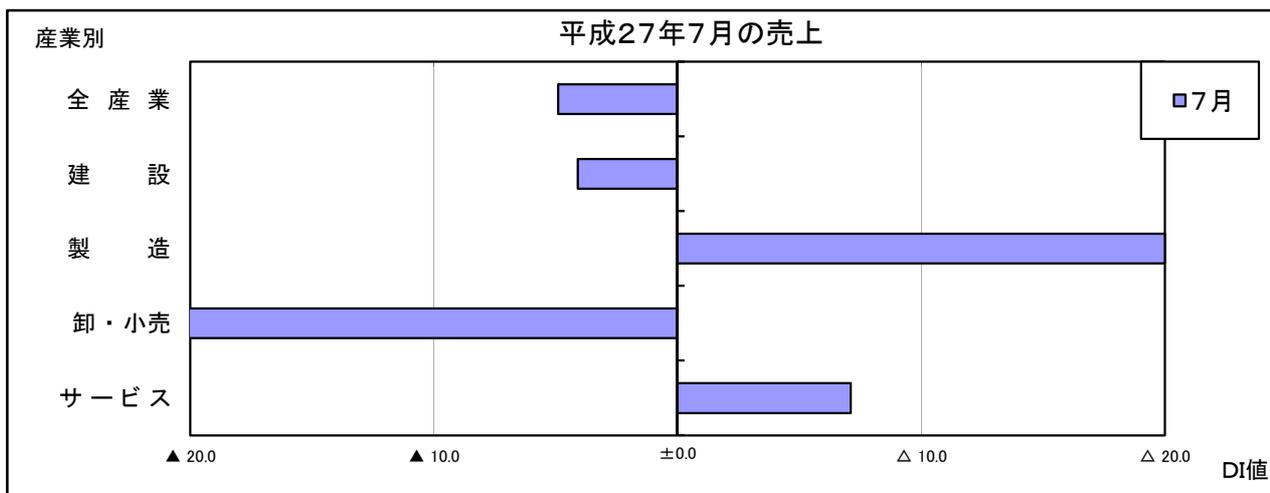
業種別では、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△20.0(同▲11.1)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲4.1(同▲13.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△7.1(同△12.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲25.0(同▲14.2)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.8(前月水準△3.5)となり、13.3ポイント悪化する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変わらない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△14.2(同△25.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲26.6(同△5.5)であり、32.1ポイントと大幅に悪化する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲21.4(同▲7.1)である。

平成27年7月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲13.5	▲16.8	▲14.4	▲17.0	▲8.2	▲4.9	▲9.8(△3.5)
建設	▲19.0	▲18.1	▲26.0	▲17.3	▲13.0	▲4.1	±0.0(±0.0)
製造	▲10.5	▲5.2	▲16.6	▲5.5	▲11.1	△20.0	▲26.6(△5.5)
卸・小売	▲32.0	▲53.8	▲18.5	▲41.6	▲14.2	▲25.0	▲21.4(▲7.1)
サービス	△18.7	△31.2	△13.3	△5.8	△12.5	△7.1	△14.2(△25.0)



【平成27年7月の採算についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.6(前月水準▲25.8)となり、マイナス幅が3.8ポイント拡大した。

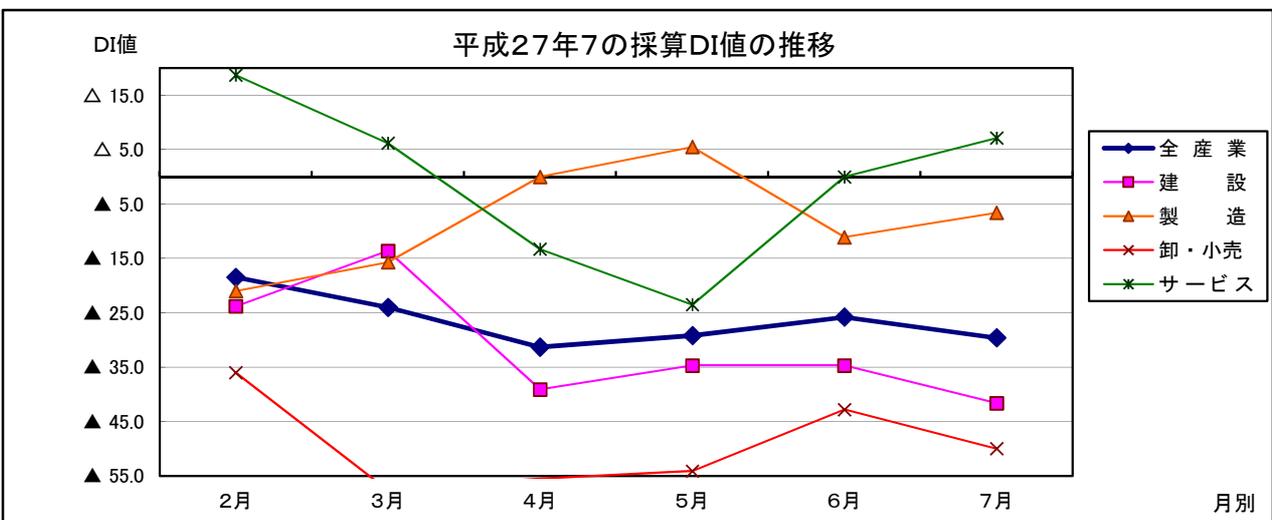
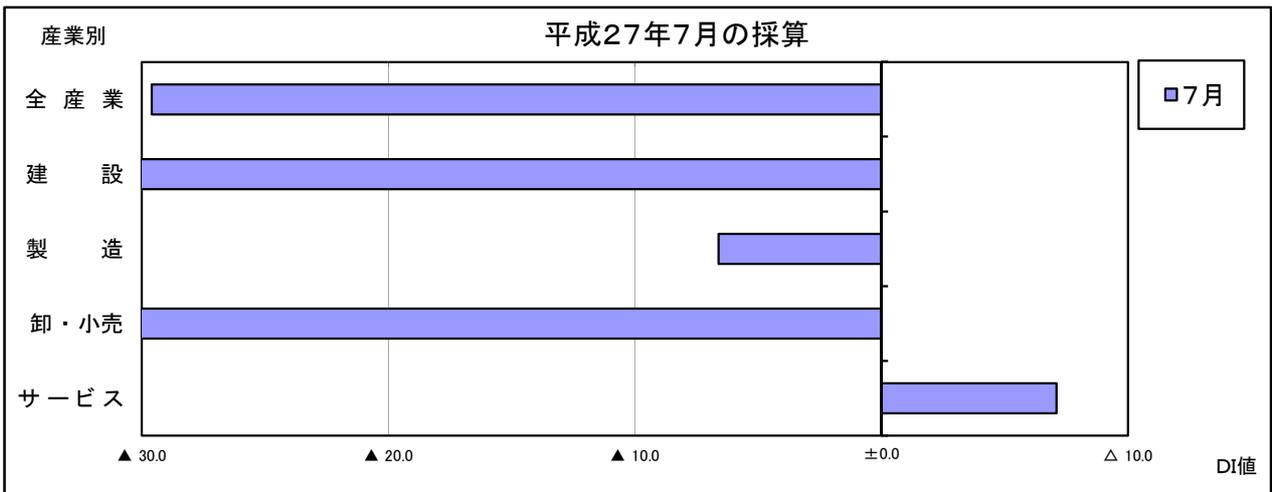
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△7.1(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲6.6(同▲11.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲50.0(同▲42.8)、建設業▲41.6(同▲34.7)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.9(前月水準▲7.0)であり、マイナス幅が13.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△21.4(同△18.7)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲20.0(同±0.0)であり、20.0ポイントと大幅に悪化する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲29.1(同▲13.0)、卸小売業▲35.7(同▲21.4)である。

平成27年7月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲18.5	▲24.0	▲31.3	▲29.2	▲25.8	▲29.6	▲20.9(▲7.0)
建設	▲23.8	▲13.6	▲39.1	▲34.7	▲34.7	▲41.6	▲29.1(▲13.0)
製造	▲21.0	▲15.7	±0.0	△5.5	▲11.1	▲6.6	▲20.0(±0.0)
卸・小売	▲36.0	▲57.6	▲55.5	▲54.1	▲42.8	▲50.0	▲35.7(▲21.4)
サービス	△18.7	△6.2	▲13.3	▲23.5	±0.0	△7.1	△21.4(△18.7)



【平成27年7月の仕入単価についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲38.2(前月水準▲47.0)となり、マイナス幅が8.8ポイント縮小した。

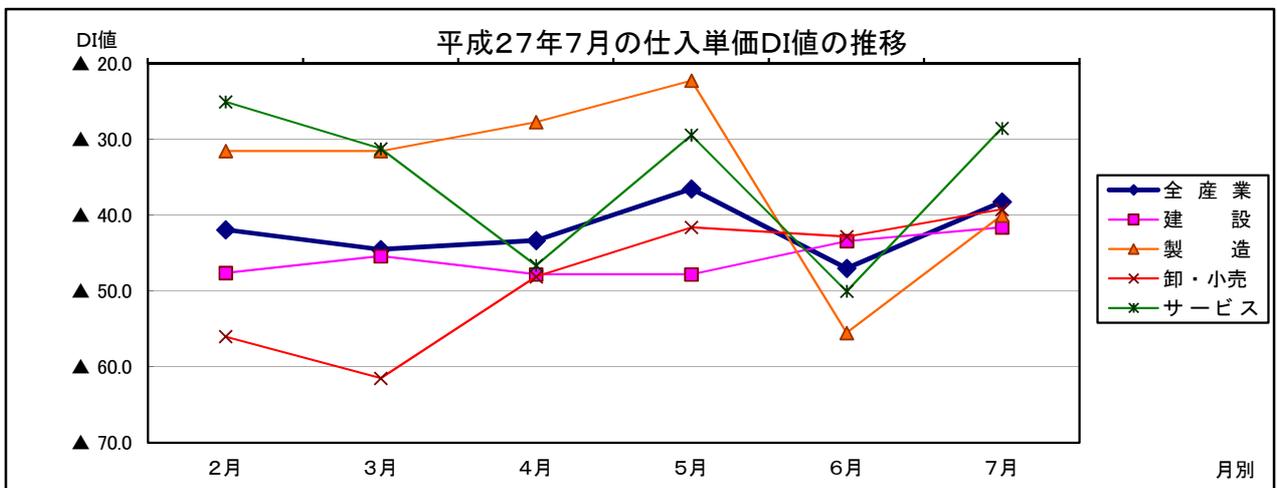
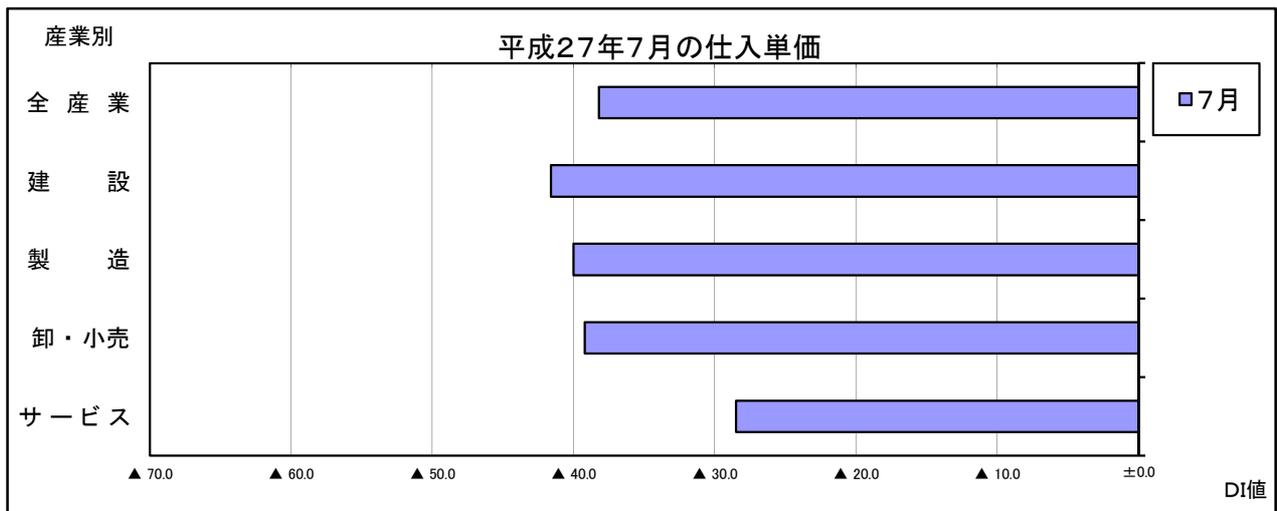
業種別では、前月水準と比べて、全ての業種でマイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、サービス業▲28.5(同▲50.0)、製造業▲40.0(同▲55.5)、卸小売業▲39.2(同▲42.8)、建設業▲41.6(同▲43.4)となり、特に、サービス業では21.5ポイントと大幅に縮小した。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.9(前月水準▲27.0)となり、マイナス幅が1.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業±0.0(同▲25.0)となり、25.0ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲26.6(同▲22.2)、卸小売業▲42.8(同▲39.2)、建設業▲20.8(同▲17.3)である。

平成27年7月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲41.9	▲44.5	▲43.3	▲36.5	▲47.0	▲38.2	▲25.9(▲27.0)
建設	▲47.6	▲45.4	▲47.8	▲47.8	▲43.4	▲41.6	▲20.8(▲17.3)
製造	▲31.5	▲31.5	▲27.7	▲22.2	▲55.5	▲40.0	▲26.6(▲22.2)
卸・小売	▲56.0	▲61.5	▲48.1	▲41.6	▲42.8	▲39.2	▲42.8(▲39.2)
サービス	▲25.0	▲31.2	▲46.6	▲29.4	▲50.0	▲28.5	±0.0(▲25.0)



【平成27年7月の従業員についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△12.3(前月水準△10.5)となり、プラス幅が1.8ポイント拡大した。

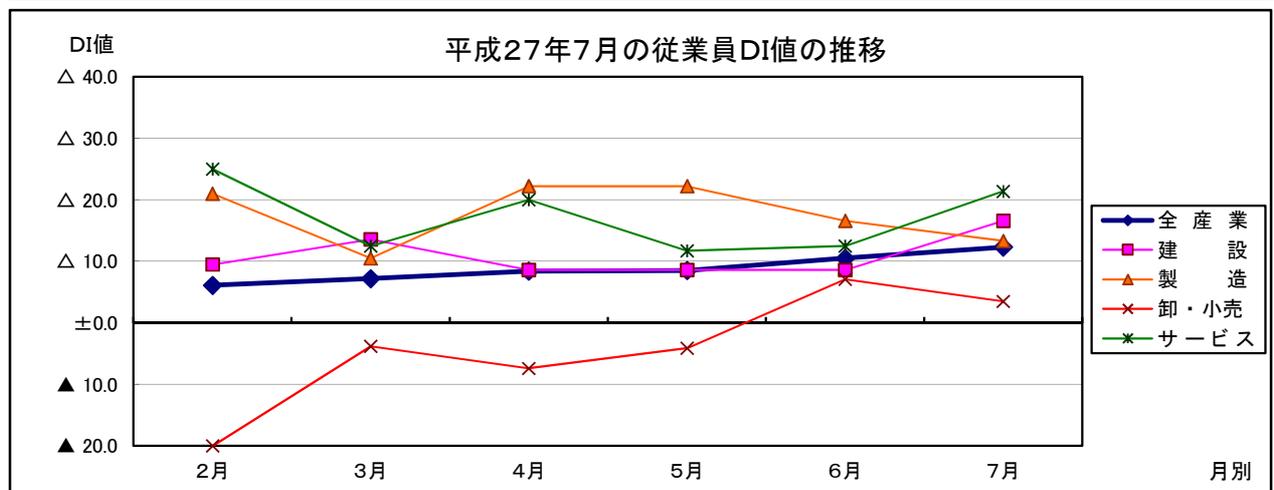
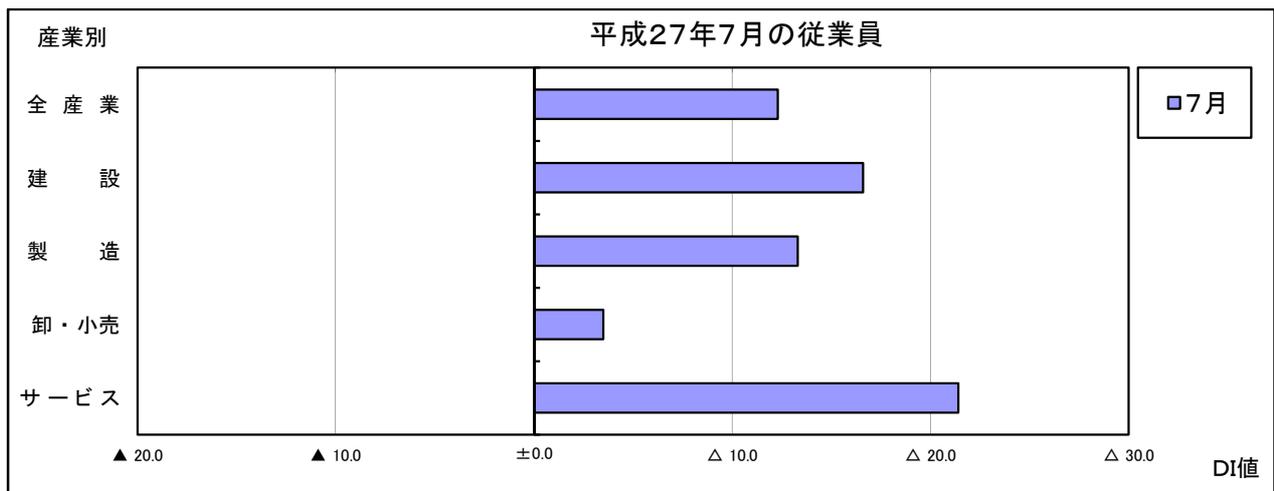
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△21.4(同△12.5)、建設業△16.6(同△8.6)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業△3.5(同△7.1)、製造業△13.3(同△16.6)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、△12.3(前月水準△7.0)であり、プラス幅が5.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△35.7(同△12.5)、卸小売業△7.1(同±0.0)、製造業△6.6(同△5.5)であり、サービス業では、23.2ポイントと大幅に拡大する見通しである。プラス幅が縮小した業種は、建設業△8.3(同△13.0)である。

平成27年7月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	△6.1	△7.2	△8.4	△8.5	△10.5	△12.3	△12.3(△7.0)
建設	△9.5	△13.6	△8.6	△8.6	△8.6	△16.6	△8.3(△13.0)
製造	△21.0	△10.5	△22.2	△22.2	△16.6	△13.3	△6.6(△5.5)
卸・小売	▲20.0	▲3.8	▲7.4	▲4.1	△7.1	△3.5	△7.1(±0.0)
サービス	△25.0	△12.5	△20.0	△11.7	△12.5	△21.4	△35.7(△12.5)



【平成27年7月の資金繰りについての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9.8(前月水準▲5.8)となり、マイナス幅が4.0ポイント拡大した。

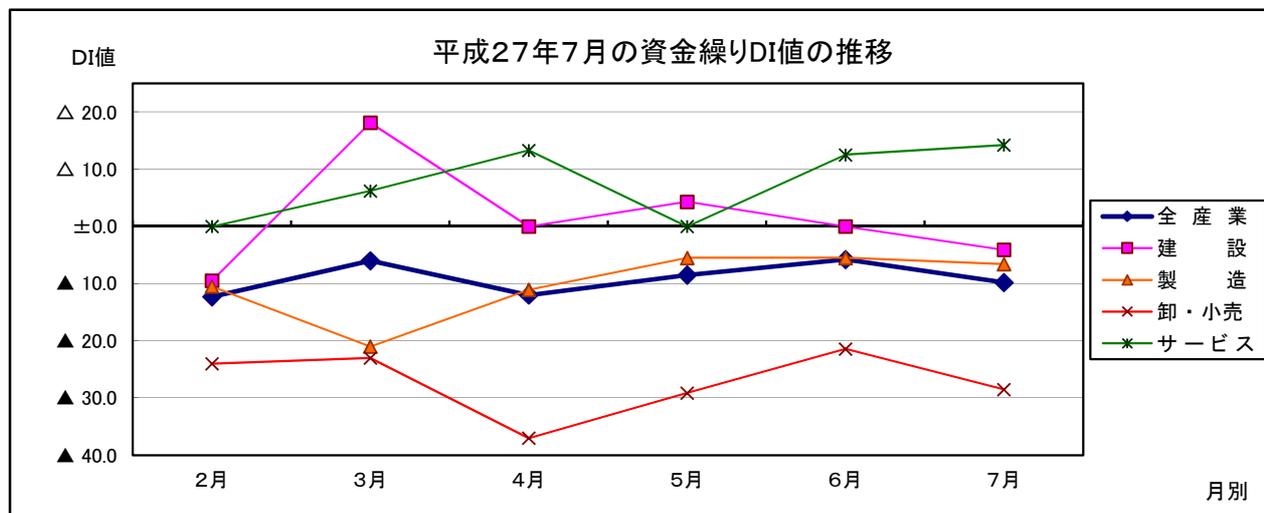
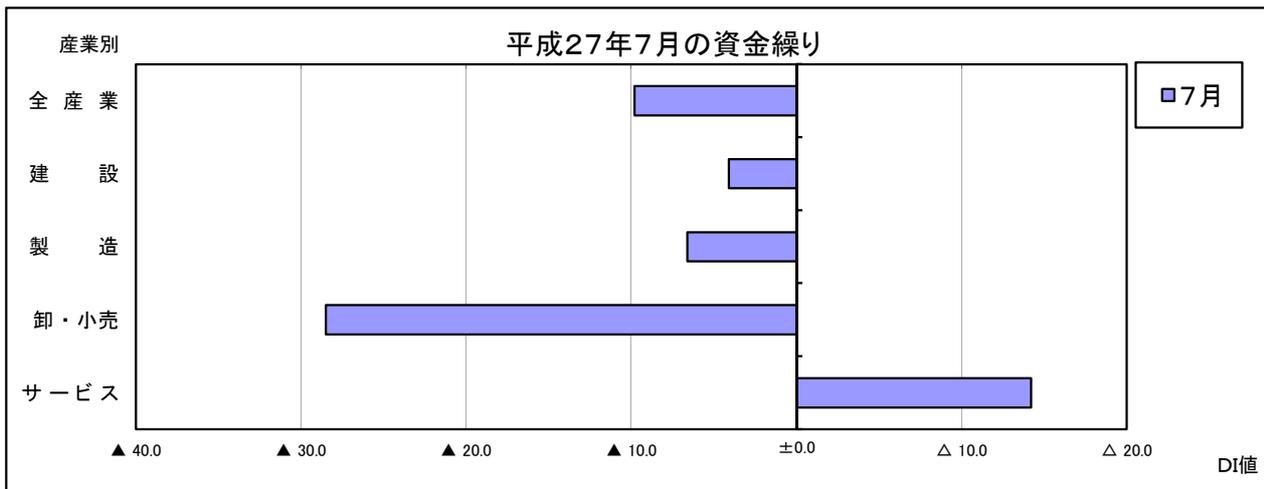
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△14.2(同△12.5)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲4.1(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲28.5(同▲21.4)、製造業▲6.6(同▲5.5)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.9(前月水準▲4.7)となり、マイナス幅が0.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△7.1(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲14.2(同▲21.4)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同△13.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲6.6(同▲5.5)である。

平成27年7月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成27年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲12.3	▲6.0	▲12.0	▲8.5	▲5.8	▲9.8	▲4.9(▲4.7)
建設	▲9.5	△18.1	±0.0	△4.3	±0.0	▲4.1	±0.0(△13.0)
製造	▲10.5	▲21.0	▲11.1	▲5.5	▲5.5	▲6.6	▲6.6(▲5.5)
卸・小売	▲24.0	▲23.0	▲37.0	▲29.1	▲21.4	▲28.5	▲14.2(▲21.4)
サービス	±0.0	△6.2	△13.3	±0.0	△12.5	△14.2	△7.1(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 4.9	▲ 9.8	▲ 29.6	▲ 20.9	▲ 38.2	▲ 25.9	△ 12.3	△ 12.3
建設	▲ 4.1	±0.0	▲ 41.6	▲ 29.1	▲ 41.6	▲ 20.8	△ 16.6	△ 8.3
製造	△ 20.0	▲ 26.6	▲ 6.6	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 26.6	△ 13.3	△ 6.6
卸・小売	▲ 25.0	▲ 21.4	▲ 50.0	▲ 35.7	▲ 39.2	▲ 42.8	△ 3.5	△ 7.1
サービス	△ 7.1	△ 14.2	△ 7.1	△ 21.4	▲ 28.5	±0.0	△ 21.4	△ 35.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 19.7	▲ 16.0	▲ 9.8	▲ 4.9
建設	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 4.1	±0.0
製造	±0.0	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 6.6
卸・小売	▲ 42.8	▲ 35.7	▲ 28.5	▲ 14.2
サービス	△ 14.2	△ 7.1	△ 14.2	△ 7.1

【平成27年7月の業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	キーワード	業種
建設	暑いので大変。見える化された仕組みづくりが今後重要になるのでは。	猛暑の影響	一般土木建築工事業
	猛暑でエアコンのエコタイプ機種への買い替えが多い。LED照明も外灯に普及増が見込まれる。	猛暑の影響 LED照明	電気工事業
	売上高は上がっているが相変わらず仕入の支払いが多くて、業況や資金繰りが悪いのが悩みです。	売上増 仕入単価上昇 業況悪化 苦しい資金繰り	内装工事業
	今後の仕事は確保出来ているものの、採算的に余裕がなく、厳しい状況が続いている。猛暑の影響で思うように作業が進まない。作業員の体調不良等、何処の現場も作業性が落ち、行程のズレが生じ、結果的に売上減少となった。全体的に仕事は少ないようで、採算度外視で受注する業者も出ており、価格破壊が起きそうな感がある。また、材料仕入先からの営業も増え、かなり厳しい業況を感じている。	採算悪化 猛暑の影響 価格破壊 業況悪化	その他の職別工事業
製造業	諸経費値上げ、仕入単価上昇の状況での納品単価値上げは受け入れられていない。価格のダウンを要求する業者もある。大企業との格差は拡大している。	仕入単価上昇 値下げ要求	その他の金属製品製造業
	夏の暑さで各企業の士気が下がっている様に思える。受注量が減っている。	猛暑の影響	印刷業
	お盆休みの影響により、加工協力会社が工数オーバーになっており、コストアップに繋がっている。	工賃値上げ	その他の機械・同部品製造業
	情報化社会において選択肢が広がることで、ポジティブな発想に偏ってしまうと、身の丈を越えてしまうことがある。世界の経済の歴史を知ることは、古きに戻ることではなく、改革革新の学びを得、発展していくことだと考える。		印刷業
	上旬は雨続き、中旬からは真夏日と天候不順に悩まされる。売上金額は昨年並みだが、利益率は下がる。来街者数の減少が顕著。金額が昨年並みから微増になったのはプレミアム商品券の影響かもしれません。	長雨・猛暑の影響 利益率低下 来街者減少 プレミアム商品券	婦人・子供服小売業
	プレミアム商品券によるお客様の来店は多少増えつつあるが、財布は固く、無駄なものは本当に買われていません。レジャーには使用するが、毎日の食費等は節約の意識が高い。	プレミアム商品券 節約志向	その他の各種商品小売業
	円安から来る仕入原価の上昇は、世界的な需要アップも踏まえ、これからも続くと思われる。どう付加価値を付けていくかが課題。	仕入単価上昇	各種食料品小売業

【平成27年7月の業種別業界内トピックス】

卸小売	7月の梅雨明けから、例年のない気象環境となって、猛暑、ゲリラ豪雨、雷、干ばつと生産者にとっては厳しい環境で栽培しています。市場取引では、全国から安定供給を図るために、九州から北海道の青果物の情報を聞き取り、安定入荷と公正な価格で取引をしていますが、一部の商品では不足感があり、高値取引もあります。今後も夏祭り、花火大会など地域のイベントで活性化されることを期待しながら、集荷販売に取り組んで参ります。	天候不順の影響	食料・飲料卸売業
	流通業はじめ、世の中の経済指標が向上しているの、業績が上がって当然です。多少、世の中の指標よりは上振れているので、その分は企業努力と能力なのだ認識しております。	経済指標の上昇 企業努力	他に分類されない小売業
	衣料品は前年は6月末スタートのセールを本年は7月に変更したため、序盤はセール牽引で大幅伸長。但し、中旬以降は猛暑の影響もあり失速。宝飾・時計など高額品は前月に引き続き好調を維持しているものの、前月・前々月に比較してトレンドは鈍化。	猛暑の影響	百貨店
サービス	昨年同様の売上は確保しています。		酒場・ビヤホール
	不動産に関する問合せ数はほとんど変わらずに平均しています。土地の広い駅近の条件の良い物件は動きが良い。逆に、バス便、狭小物件は動きが鈍いです。		不動産管理業
	個人需要では、国内は相変わらず大阪のテーマパークと北陸が大人気。現在、年末年始の申込みがピーク。海外は10月以降、ヨーロッパが復調の兆し。ISの影響が落ち着いてきたのか？ハワイウェディングが人気。法人需要では、秋の職場旅行案件が活発に動いている。秋の行楽シーズンにおいて、バス需要に供給が追いついていない日が出ている。	大阪のテーマパーク 北陸旅行 ハウスウェディング 秋の職場旅行 バス需要	旅行業
	近頃、空き家問題をあちこちで耳にするようになりました。柏近辺はまだ地方に比べ切迫した問題にはなっておりませんが、そのような地方を参考に、今から問題抑止のための法整備や業界の勉強会が必要と感じています。	空き屋問題	不動産賃貸・管理業

## ◎猛暑の影響

猛暑でエアコンのエコタイプ機種への買い替えが多い。LED照明も外灯に普及増が見込まれる。

電気工事業

衣料品は前年は6月末スタートのセールを本年は7月に変更したため、序盤はセール牽引で大幅伸長。但し、中旬以降は猛暑の影響もあり失速。宝飾・時計など高額品は前月に引き続き好調を維持しているものの、前月・前々月に比較してトレンドは鈍化。

百貨店

## ◎仕入単価上昇

売上高は上がっているが相変わらず仕入の支払いが多くて、業況や資金繰りが悪いのが悩みです。

内装工事業

円安から来る仕入原価の上昇は、世界的な需要アップも踏まえ、これからも続くと思われる。どう付加価値を付けていくかが課題。

各種食料品小売業

## ◎プレミアム商品券

プレミアム商品券によるお客様の来店は多少増えつつあるが、財布は固く、無駄なものは本当には買われていません。レジャーには使用するが、毎日の食費等は節約の意識が高い。

その他の各種商品小売業

上旬は雨続き、中旬からは真夏日と天候不順に悩まされる。売上金額は昨年並みだが、利益率は下がる。来街者数の減少が顕著。金額が昨年並みから微増になったのはプレミアム商品券の影響かもしれません。

婦人・子供服小売業

## 平成27年7月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲19.7に対し、「CCI-LOBO」が▲20.0で柏の方がマイナス幅が0.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、それぞれ10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲4.9に対し、「CCI-LOBO」が▲11.0で柏の方がマイナス幅が6.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、それぞれ10ポイント以上良い。柏の景気の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.6に対し、「CCI-LOBO」が▲17.4で柏の方がマイナス幅が12.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、それぞれ10ポイント以上良い。柏の景気の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、それぞれ10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」の方が▲38.2に対し、「CCI-LOBO」が▲46.7で柏の方がマイナス幅が8.5ポイント小さい。全ての業種で「柏の景気」が良く、特にサービス業では10ポイント以上良い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△12.3に対し、「CCI-LOBO」が△12.8で柏の方がプラス幅が0.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売であり、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲9.8に対し、「CCI-LOBO」が▲12.1で柏の方がマイナス幅が2.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、サービス業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。

# 平成27年7月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 19.7	 ▲ 25.0	 ±0.0	 ▲ 42.8	 △ 14.2
CCI-LOBO	 ▲ 20.0	 ▲ 23.1	 ▲ 17.9	 ▲ 24.4	 ▲ 13.9

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 4.9	 ▲ 4.1	 △ 20.0	 ▲ 25.0	 △ 7.1
CCI-LOBO	 ▲ 11.0	 ▲ 22.2	 ▲ 8.2	 ▲ 16.4	 ▲ 4.6

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 29.6	 ▲ 41.6	 ▲ 6.6	 ▲ 50.0	 △ 7.1
CCI-LOBO	 ▲ 17.4	 ▲ 21.4	 ▲ 19.5	 ▲ 22.0	 ▲ 9.9

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 38.2	 ▲ 41.6	 ▲ 40.0	 ▲ 39.2	 ▲ 28.5
CCI-LOBO	 ▲ 46.7	 ▲ 50.4	 ▲ 44.7	 ▲ 46.1	 ▲ 45.4

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 12.3	 △ 16.6	 △ 13.3	 △ 3.5	 △ 21.4
CCI-LOBO	 △ 12.8	 △ 15.8	 △ 4.3	 △ 15.5	 △ 20.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 9.8	 ▲ 4.1	 ▲ 6.6	 ▲ 28.5	 △ 14.2
CCI-LOBO	 ▲ 12.1	 ▲ 10.7	 ▲ 11.5	 ▲ 19.3	 ▲ 9.1

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (7月速報)

調査期間：平成27年7月15日～22日

調査対象：全国の422商工会議所が2972企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、足踏み。  
先行きは改善見込むも、転嫁遅れなどからばらつき

7月の全産業合計の業況DIは、▲20.0と、前月から▲4.7ポイントの悪化。仕入価格上昇分の転嫁遅れや人手不足、人件費の増大が経営の足かせとなる状況が続く。また、台風など天候不順の影響による売上減を指摘する声も聞かれ、中小企業の景況感は足踏みとなった。ただし、好調なインバウンドによる下支えや、住宅・設備投資に持ち直しに向けた動きが伺えるなど、好材料がみられるほか、「好転」から「不変」への変化がDIを押し下げる要因となったことにも留意が必要。

先行きについては、先行き見通しDIが▲17.0（今月比+3.0ポイント）と改善を見込むも、「悪化」から「不変」への変化が主因。賃上げ、プレミアム付商品券などによる個人消費の持ち直しや、夏休みに伴う観光需要の拡大、住宅、設備投資の回復を期待する声聞かれる。他方で、コスト増加分の価格転嫁や人手不足、人件費の増大などの懸念材料が残り、中小企業においては、先行きの

見通しにばらつきがみられる。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「減少傾向にある公共工事の受注を確保するため、価格競争が激化。収益確保が難しい」（一般工事業）、「貸家やマンションなどの受注が堅調。特にマンションは、コスト増加分の転嫁が進みつつあり、採算が好転している」（一般工事業）、「受注量は前年度並みを確保しているが、人手不足が深刻化し、工期への影響が心配」（建築工事業）

【製造業】「仕入価格の上昇を受けて、7月から自社製品の値上げを実施したものの、受注に影響が出ないか不安」（調味料製造業）、「業績改善が遅れているため、輸出や新商品開発など、新しい需要開拓に向けた取り組みを検討中」（衣料用ねん糸製造業）、「省力化機械などの引き合いが伸びているが、技術職不足により、外注費が増大。収益を圧迫している」（産業機械製造業）

【卸売業】「仕入価格上昇分は転嫁できているが、運送費

などのコスト増加分は自社で吸収せざるを得ない」（衣料品・日用品卸売業）、「人材定着を図るため、賃上げを検討中。ただし、売上が伸び悩む中、人件費の上昇は収益を一段と圧迫するため、踏み切れない」（建築資材卸売業）、「一部の取引先が海外から国内に生産をシフトさせており、今後、自社への恩恵が期待できる」（電線・絶縁材料卸売業）

【小売業】「セールの出足は良かったものの、台風など天候不順が続いたことで客足が遠のき、売上が伸び悩んだ」（百貨店）、「プレミアム付商品券を利用する買い物客が多く、売上は堅調」（商店街）、「近隣地域にアウトレットや大型店が相次いで開業するため、来客数や売上への影響を懸念している」（衣料品販売店）

【サービス業】「前年同月に比べ燃料費が低水準にあり、飲料などの受注も伸びているため、業績が改善」（運送業）、「食料品の値上げに加え、野菜の価格も上昇しており、採算は厳しい」（飲食店）、「自治体が発行した旅行券の効果もあって、7～8月にかけて宿泊予約が例年以上となっている」（旅館業）

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲21.7	▲9.4	▲14.9	▲29.8	▲43.5	▲12.9
3月	▲24.7	▲6.8	▲15.6	▲34.2	▲49.7	▲17.7
4月	▲15.3	▲10.1	▲15.6	▲20.5	▲18.1	▲13.2
5月	▲13.5	▲13.4	▲15.1	▲17.3	▲13.6	▲10.0
6月	▲15.3	▲15.1	▲12.6	▲20.6	▲19.8	▲11.6
7月	▲20.0	▲23.1	▲17.9	▲23.7	▲24.4	▲13.9
見通し	▲17.0	▲13.7	▲15.8	▲22.5	▲27.4	▲7.9